

福島県耶麻郡山都町「そば銀行と農家食堂」

全国のそば愛好家と結び
「新・そばの里」づくり

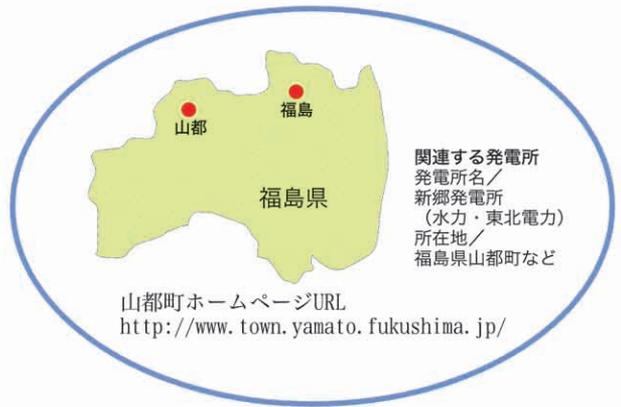
そばの里

福島・山形・新潟の三県にまたがる霊峰、飯豊(いいで)山麓に広がる山都町は、古くからそばの里として有名です。つなぎを一切使わない、真っ白な山都そばは、「幻のそば」と珍重されてきました。昭和三十年代以降、急速に進んだ過疎化と高齢化の対策として、「そばをテーマにした地域振興」がスタートしたのは昭和五十九年のこと。中心になったのは山都町商工会青年部の人たちで、商工会が福島県の「小規模事業地域活性化推進事業」のモデル指定を受けたのがきっかけでした。町内の



農家食堂
「農家食堂」はすべて予約制。料金は料理会席で三〇〇〇円程度。

宮古地区にある「農家食堂」に、おいしいそばを求めて全国から愛好者が訪れることが「そばで



まちおこし」のヒントになりました。「農家食堂」とは、農家が自宅の座敷を開放して始めたそば打ち食堂のことで、昭和三十年代には一軒だったものが、「幻のそば」と口コミで広がり、今では宮古地区全三十三戸の内、十三戸が「農家食堂」を営業するまでになりました。

そば大学と
新そばまつり

青年部の人たちは、「そばでま

ちおこしするには、そばを知ることが大切」と考え、まず「そば大学」を開講することから始めました。学長には高瀬礼文早稲田大学教授を招き、複数の大学や研究所から講師を迎えました。また東京や会津の名店の店主を実技講師に、「そば打ち技術」の研修に励みました。「そば大学」は三年間行われ、山都町の農家を中心に延べ約二五〇人が講習を受けました。修了生は「そばの里づくり」の中核メンバーとして活躍しています。五十九年十一月には「やまと新そばまつり」を開催。手打ちそばや山菜、川魚など山都の味で町外の人をもてなしました。マスコミで紹介されたこともあり、今では限定二千枚のチケットが数日で完売になるほどの人気です。「そば大学」や「やまと新そばまつり」の成功から、地域全体で山都のそばを守っていくという機運が高まり、昭和六十年には「宮古そば保存会」が結成されました。一軒もなかった生そばの常設店も昭和六十二年には二軒開店、現在では四軒が営業しています。



そば資料館「そば打ち体験場」
※地粉100%、の山都そばの打ち方を体験できる。



飯豊と そばの里センター

行政も支援策を打ち出し、平成元年から準備を進め、平成六年に「そば資料館」「ふるさと館」「ふれあい館」から成る「飯豊とそばの里センター」をオープンしました。「そば資料館」には、「そば大学」の講師の協力で収集した、そばに関する貴重な資料を展示しました。

翌年には「そば乾燥調整加工施設」、平成八年には「そば伝承館」も建設されました。「そば乾燥調整加工施設」は、農家から買い取ったり預かった玄そばを、除湿乾燥機で乾燥後、最良の状態に保管し、必要に応じて適量供給する施設です。生産農家は、自家貯蔵による玄そばの劣化やネズミの害に悩むことなく、常時、良質なそばを賞味できようになりました。この施設を活用した「そば銀行」計画も最終段階に入りました。「飯豊とそばの里センター」は、そばに関する総合情報発信基地として、今では年間三万五千人が訪れる、山都町観光の中核施設になっています。

「飯豊とそばの里センター」のオープンを記念して、平成六年十一月には「全国麺類文化地域間交流推進協議会（全麺協）」とタイアップした、全国規模のイベント「第一回日本新そばまつりin会津」

を開催しました。「全麺協」は「そばでまちおこし」に取り組んでいる全国約四十の町村・団体などで構成する任意団体で、現在、吉田昭一山都町長が会長を務めています。

そば銀行
そばの管理はコンピュータで行う。

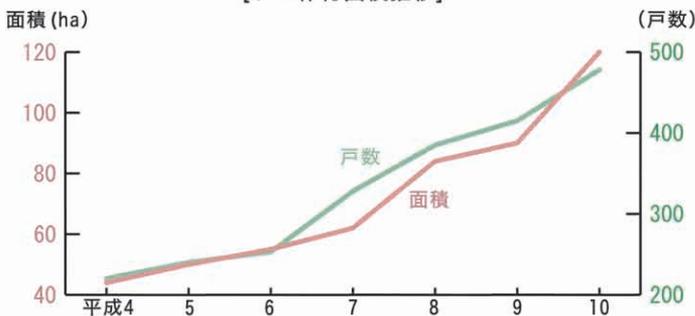


そば銀行と 山都町振興公社

山都町は、北海道・池田町の「ミートバンク」を視察するなど、農産物の一括管理の方法を研究し、「そば乾燥調整加工施設」を建設。その稼動を機に、平成七年、「そば銀行制度」を始めました。生産農家は玄そば

を「そば銀行（そば乾燥調整加工施設）」に「預け入れ」、必要な時に必要な量だけそばを「引き出す」ことができます。この場合、「玄そば」「そば粉」「生そば」と引き出すそばの形態により、一キロ一五〇円（玄そば）から一五〇〇円（生そば）の手数料が必要となります。預金者以外の人（業者を除く非生産者）は、そばの「融資」を受けることができます。この場

【ソバ作付面積推移】





合も「玄ソバ」「そば粉」「生そば」により「融資価格」が異なり、決済は現金で行われます。実質的にはそばを購入することになるわけです。「そば乾燥調整加工施設」と「そば銀行」の稼動を機に、山都町のソバ作付面積は飛躍的に増加しました。

同年、ふるさと創生事業により掘削した町営温泉施設「いいでのゆ」がオープン。食堂で常時「山都そば」を提供するようになりました。温泉のある一ノ木地区では「農家食堂」の開店が相次ぎました。「いいでのゆ」には、今では年間七万人が訪れます。

こうした動きを受け、平成八年には「会津山都そば協会」が発足。第三セクターの「株」山都町振興公社も設立されました。「山都町振興公社」は「飯豊とそばの里センター」「そば銀行」「いいでのゆ」などの管理運営を行う、「そばの里づくり」の中核組織に位置付けられています。

そばの里の グリーンツーリズム

山都町では「そばの里」と豊山の観光資源——登山、キャンプ、釣り、山菜取りなど——をドッキングさせたグリーンツーリズムへの取り組みを始めています。平成十年には冬の誘客を狙って「寒晒（かんざらし）そばまつり」を創設し、江戸時

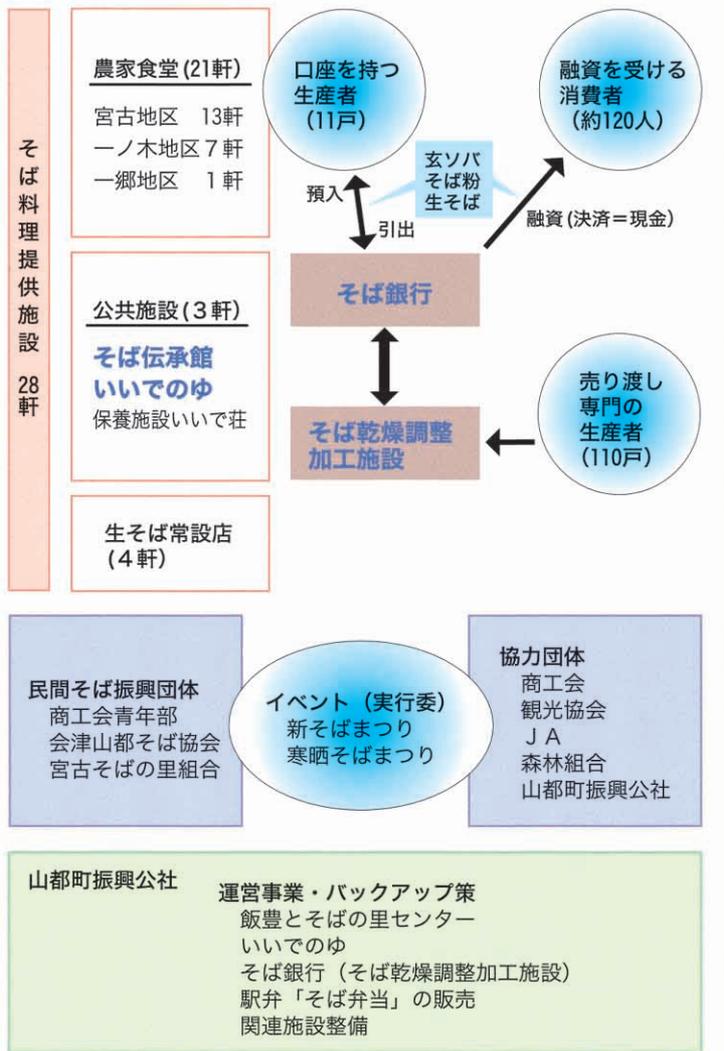


寒晒そばまつり
毎年1月最後の土日に開催。関東、南東北、新潟方面を中心に県外からも多数訪れる。

代に将軍家に献上されていた「御前そば」を復活させました。キャンプ場や体験農場、宿泊施設などの整備・拡充も計画しています。「農家食堂の後継者難や財政難で厳しい状況ですが、そばで大学で育った人的資源・自然の景観を生かし、地道な条件整備を行っていくかと思っております」と企画課の板橋政博係長は話しています。

山都町「そばの里づくり」

青色の字は振興公社運営事業



問い合わせ先 山都町企画課 電話0241-38-3835



足の不自由なお年寄りの依頼で「犬の散歩」を行いクリンを受け取る小学生。



エコマネーはボランティア活動の対価として使われる地域通貨のことで、世界ではすでに約五百の先進事例があり、ボランティア先進国の米国では、その経済規模はGDPの一割近くに

達していると言われています。エコマネーは限定地域内の「財やサービスの交換」にのみ適用され、金融仲介機能は持ちません。コミュニティ内の生活者が発行し、各種グループやNPOが運営を行います。

現代版「てまがえ」

栗山町は昭和六十三年の「第二次発展計画」で「福祉のまちづくり」を提唱し、施設型から在宅型福祉への転換を志向しました。急速な高齢化の進展と財政難の中、行政が提供できるサービスには限界がある、と考えたからです。「在宅福祉の時

代」にはコミュニティをベースにした「共助」の仕組みが必要と、エコマネーのシステムに着目しました。「東京栗山会」の集まりでエコマネーの存在を知った川口孝太郎町長の指示で、栗山町は平成十一年七月、エコマネーの普及・指導に取り組む加藤敏春氏（「エコマネーネットワーク」主宰）を東京から招き学習会を開きました。約一二〇人が参加しましたが、「それは加藤さん、北海道にもともとある『てまがえ』のことですよ」という参加者の発言が皆の胸に響きました。「てまがえ」とは、家事や農作業の手間を代行し合う、地域が

強いきずなで結ばれていた時代の習慣です。この一言で「エコマネーのイメージがすつと頭に入りました」（くりやまエコマネー研究会・花田正博事務局長）。九月には民間団体「くりやまエコマネー研究会」が発足。代表には赤十字病院勤務の長谷川誓一さんが就任しました。役場内にも、企画、福祉、教育部門の横断的な組織「エコマネー事務局」が設立されました。

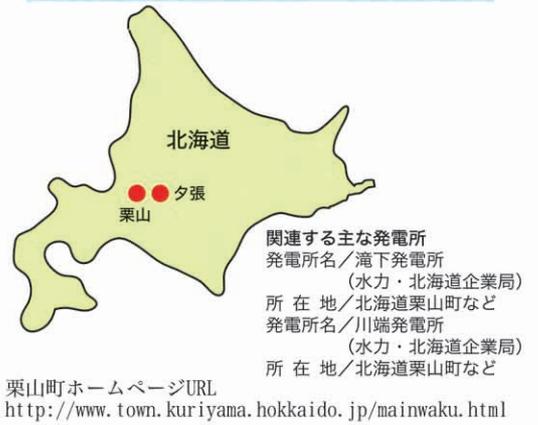
半年の準備期間を経て、平成十二年二月から三月にかけて「第一次試験流通」を行いました。「エコマネーの名称は、栗山の「くり」と「クリーン」から「クリン」としました。参加者から提出された「自分にできること」を見ると、福祉に限らず、環境や教育、スポーツなど多様なボランティアサービスのことやサービスがあることが分かりました。「サービスメニュー表」には二五五項目を登録。利用者はその中から利用したいサービスを選び、直接、サービス提供者に電

「てまがえ」とは、家事や農作業の手間を代行し合う、地域が

シリーズ
ネットワークでまちづくり

北海道夕張郡栗山町「エコマネー」

エコマネーで 21世紀型の地域創造を



第一次試験流通

「てまがえ」とは、家事や農作業の手間を代行し合う、地域が





利用者は「メニュー表」①からサービスを選び、提供者に電話で依頼する。提供されたサービスの対価は「クリン」②で支払われ、「交換手帳」③に記録される。



話します。しかし「知らない人に初めて電話するのはどうも…」などの声が上がったことから、三月中旬に「くりやまエコマネーフェスティバル」を開催し、サービスの提供者と依頼者が交流できる場を設けました。こうした努力の結果、第一次試験流通には二五〇人が参加し、七六%が実際にクリンの交換を行いました。

第二次試験流通

第二次試験流通は平成十二年九月一日から三カ月間行いました。参加者は五五三人と、前回の倍以上。サービスメニューは「出来ること」に加え「しても

らいたいこと」も掲載した結果、四七五種類・九千項目と格段に充実。「メニュー表」は六六四ページの厚さになりました。また「直接電話しにくい」という

第一次の反省から「地域コードイネイター」制度を実験。全学生が参加した町立北海道福祉学校とモデル指定町内会を対象に、コーディネートを置き、依頼者と提供者の調整を行いました。福祉、環境、教育、地域など

分野ごとに細かく対策を立て、福祉分野では、介護保険の対象外である「心のケア」や「日常的支援」、また独居老人への「声かけ」などのサービス利用を促進しました。また環境分野は「ごみの軽減化」をテーマにしました。スーパリーの買い物袋の減量化に取り組み、店の買い物袋を使わない人にポイントを提供する「エコポイント制度」の実験を行いました。一回・ポイント(一〇〇クリン相当)で、ポイントが貯まるとクリンに交換できます。また「フリーマーケット」を開催し、粗大ごみとして町衛生センターに保管されていた自転車などを修繕し、エ

コマネーでは初めての物品売買を行いました。子どもたちの参加を促進する

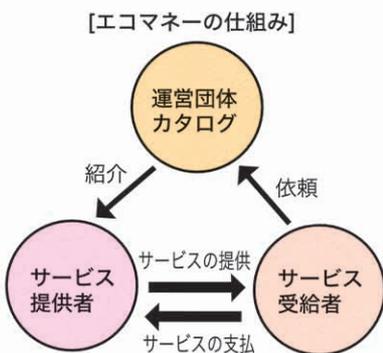
一方、「森づくり自然観察会」や「エコマネー子ども探検隊」などのイベントを開催しました。「森づくり自然観察会」では、国蝶・オオムラサキの産卵樹木となるエゾエノキの冬囲いを手伝いました。「エコマネー子ども探検隊」は、商店街、農家、資源ごみ集積所、福祉施設などで作業の手伝いをしました。普段体験できない地域や福祉の仕事、エコマネーを通じて体験した子どもたちは、地域への思いを新たにしました。

本格導入に向けて

二次にわたる試験流通では、「除雪」「イベント協力」「パソコン指導」「そば打ち指導」などの利用が上位を占めました。また「サービスを利用するだけ」と思われていた独居老人などに、特技を活用してボランティア参加したいという意向があることも分かりました。「くりやまエコマネー研究会」の花田

正博さんは、「だれかに何かをしてあげたいと思っても、どう行動すればいいか分からない。エコマネーにはそういう心の壁を崩す力がある」と言います。また「栗山でエコマネーがうまくスタートできたのは、福祉というドアから入っていったから」とも話しています。

病院ボランティア、高齢農家の作業援助、商店街の御用聞き代行など、二十一世紀はボランティア経済が拡大するといわれています。「くりやまエコマネー研究会」では、二月中旬に第二次試験流通のまとめを行い、エコマネーの本格導入へ向け、二年計画で活動していく予定です。栗山町が目指す、「まちという名の家族」づくりに、エコマネーは大きな役割を果たしています。



問い合わせ先 くりやまエコマネー研究会事務局
電話01237-2-7722 <http://www.mskk.gr.jp/ecomoney/>





エコマネー推進団体（エコマネーネットワーク調べ）

地域／団体名	目的	エコマネー名
北海道富良野市	NPO連携	フラン
北海道・黒松内町 くるねっと事務局	コミュニティー	ブナ〜ン
北海道・栗山町 くりやまエコマネー研究会	福祉、環境、教育等	クリン
北海道・下川町 下川地域通貨プロジェクト	地域活性化	Fore
群馬県太田市 太田エコマネー研究会	NPO連携	
東京都 多摩ニュータウン COMO倶楽部	コミュニティー	COMO
東京都新宿区 早稲田	コミュニティー、商店街	
東京都中野区 レインボーリング		
神奈川県横浜市 ヨコハマ未来地図づくり100人委員会	まちづくり	
千葉県千葉市 千葉まちづくりサポートセンター	商店街	ピーナッツ
長野県飯田市 飯伊地域メディア協会	環境	
長野県伊那市 伊那市エコマネー研究会	コミュニティー	い〜な
長野県駒ヶ根市 駒ヶ根青年会議所	まちづくり	ずらぁ
長野県・穂高町 ハートマネー安曇野リング		
富山県富山市 富山エコマネー研究会	高齢者福祉、生涯学習	夢たまご
富山県高岡市 商工会議所、TMO	まちづくり、市街地活性化	どらー
静岡県浜松市 ヘルスブレイン・ネットワーク	NPO連携	
静岡県清水市 清水駅前銀座商店街振興組合	商店街	EGG
静岡県三島市 富士山クラブ	環境	
静岡県磐田市 磐田エコマネー研究会	高齢者福祉、まちづくり	
愛知県半田市 レッツチタ		
三重県 エコマネー研究会		大夢(たいむ)
三重県津市	市街地活性化	
三重県・阿児町	コミュニティー	
滋賀県草津市 草津コミュニティ支援センター	NPO連携、まちづくり	おうみ
大阪府 エコネット関西	まちづくり	
京都府京都市 柳原フォーラム	まちづくり	仁(じん)
兵庫県神戸市灘区 CS神戸	コミュニティー	らく
兵庫県宝塚市 宝塚NPOセンター	NPO連携、まちづくり	ZUKA
岡山県津山市 エコネット津山	リサイクル、まち活性化	
広島県東広島市	コミュニティー	カントリー
島根県松江市 松江まちづくり塾	まちづくり	ダガー
愛媛県松山市 グループあんき	コミュニティー、世代間交流	
愛媛県松山市 ボランティアグループとなりぐみ	コミュニティー、世代間交流	
愛媛県新居浜市 わくわくアイランド大島	コミュニティー	
愛媛県・関前村 ダイムラー・ネットワーク・ジャパン	コミュニティー	だんだん
愛媛県・久万町 グループねがい	コミュニティー	
愛媛県・五十崎町 五十崎榎シール事業事務局	コミュニティー	
高知県高知市 菜園場商店街振興組合	商店街	エンバサ
高知県中村市	環境、まちづくり	
沖縄県石垣市	市街地活性化	
沖縄県・座間味村	地域活性化、地域間交流	
日本青年会議所	まちづくり	

表中の空欄は現在検討中などのもの

エコマネーネットワーク事務局

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-27東京堂神保町第2ビル2階

Tel 03-3518-2511 Fax 03-3518-2515 <http://www.ecomoney.net/>